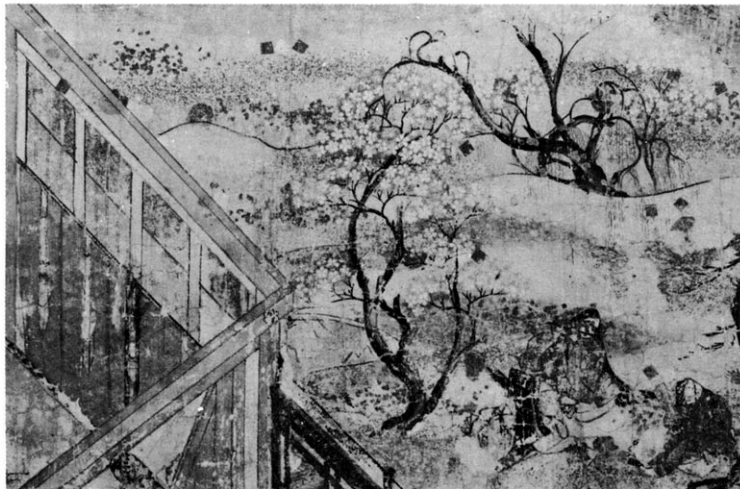


無声の詩－１－有声の絵



寝覚物語絵巻 第1段 国宝 紙本着色 平安時代後期
25.8cm×508.1cm (全巻)

●寝覚物語絵巻●

ねぎめの君と呼ばれる、あわれ深い女主人公の物語を絵巻にしたもので、今はただ1巻のみ残されているが、源氏物語絵巻とならぶ大和絵最高の名品で、その制作期は平安末即ち12世紀後半と推定されている。

庭前に遊ぶ童たちの周囲には、柳桜をこきまぜた、いかにも王朝の春にふさわしい情感がただよっている。

「爛漫たる桜花、美たらんとして多く狂風の

散らすところとなる」ように、王朝貴族ののどかな心にも、春風にあえなく散って行く桜には世の無常を感じることがあった。

現実の世界では、桜には青空の背景がよくうつるが、ここでは空は金銀箔によるきらびやかな背景に描かれている。それは非現実的ではあるが、花空のもつ輝きは不滅のものとなった。それは無常の世にあって変わらざるものの発見でもあったのである。

季刊 美のたより No.1

昭和42年 4月1日

発行 大和文華館